

土木と市民をつなげた 達人に訊く

「土木事業の広報活動を効果的に行うためには」



山名清隆氏
(ソーシャルコミュニケーションプランナー)

橋本紳一郎

Hashimoto Shinichiro
徳島大学大学院

磯部公一

ISOBE Koichi
京都大学大学院

人、都市、文化をつなげ、さまざまな分野と結びつく土木。土木工学はあらゆる局面でつながりをもつ工学である。また、人と心のつながりが大事になる業界でもある。本企画では、「つながり」をキーワードにさまざまな分野で活躍される方々へのインタビューを通して、土木業界に関するご意見を伺う。

最終回となる第6回目の今回は、「土木事業の広報活動を効果的に行うためには」と題して、共同溝の工事現場を利用してイベントを行い、土木と市民をつなげて注目を集めた「東京ジオサイトプロジェクト」に焦点を当てます。その企画の仕掛け人である山名清隆氏（ソーシャルコミュニケーションプランナー）、実際の現場を施工されている浅古勝久氏（国土交通省）、前田真氏（前田・熊谷JV）、荒谷泰弘氏（鹿島・東洋JV）にお話を伺いました。

「東京ジオサイトプロジェクト」とは？

「東京ジオサイトプロジェクト」は、国土交通省の巨大インフラ工事現場を舞台にした事業PRプロジェクト（社会資本としての共同溝が、日常生活に密着した重要なインフラであることを広く一般市民に知ってもらおうという目的）として共同溝の工事現場を数日間だけ文化的な目的で使うことに挑戦したプロジェクトです。現場は、現在共同溝工事が進められている現場の中で、特に好立地である麻布・日比谷共同溝虎の門立坑工事現場が舞台となりました。「東京ジオサイトプロジェクト」として、これまでに全3回が行われ、第1回目は「都市の無意識が目覚める」と題して、共同溝作業現場

を能楽堂とし、野村万斎氏による能が披露された（77ページ写真参照）。第2回目は「沈黙のシールドマシン展」と題してシールドマシン発進式セレモニーの一般公開と現場見学会（78ページ写真参照）、第3回目は「地底現場応援団」と題して現場作業員が主役となって自分の仕事を自分の言葉で伝える見学会が行われました（79ページ写真参照）。これまで2万人近くの人を公共事業の工事現場に誘い、100件を超える国内外の報道、200万件を超えるホームページアクセス数など、大成功に終わっています。（東京ジオサイトプロジェクトの詳細：<http://geo-site.jp/>）。

大好評に終わったプロジェクトの裏側について 仕掛け人の山名清隆氏に伺いました

●なぜ、これまでにこのような広報活動が行われなかったのでしょうか。

安全への憂慮と発注者への遠慮が優先していたためでしょう。また、現場を公開するというのは高いリスクを伴いますからね。でも本当は技術者自身が直接市民に語る勇気をもっていなかったからだと思います。

●建設業にどういった印象をおもちでしたか。

マスコミを通したグレーな印象をもっていました。でも実際に現場に何度も通い、そこで良いものをつくり出そうとする技術者の姿勢を目の当たりにして、素直に感動しました。また、ものすごくカッコイイと思いました。技術者たちは技術のことをとても情熱的に話してくれました。でも僕が興味をもつ

地底からの短い手紙
トンネル技術者44人のメッセージ

●地下の芸術作品をこれからもつくります。(前田・熊谷JV 所長 安田茂人) ●トンネル内は自分の部屋。オフィスよりきれいで快適と感じる方には、永住権のご相談にのりますので、当方へ。(前田・熊谷JV 統括所長 前田真) ●お〜い妻と子供よ おっとうはここだよ。(前田・熊谷JV 工事課長 野口智之) ●娘たちへ 君のお金でつくらせてもらってます。ありがとう。(前田・熊谷JV 副所長 宮崎雅弘) ●子供たちへ パパは、地底の女神とお友達。ママには内緒だよ！(前田・熊谷JV 土木主任 菊池崇) ●これが私の仕事です。(前田・熊谷JV 工事課長 高橋裕之) ●未来の生活が快適に暮らせるため、地下を掘り続けます。(前田・熊谷JV 機械・電気担当 飯田真啓)



写真-1 東京ジオサイトプロジェクトのロゴ
(写真中央)



写真-2 見学者の感想がいっぱい書き込まれたボード



写真-3 プロジェクト当日について話される前田氏(写真左)と山名氏(写真右)

たのは、その技術の中身ではなく、その人の仕事に向けた「真摯な態度」や「まっすぐな熱意」でした。それを皆さんに伝えたいと思いました。

●企画を立てる段階で、どういったことを頭に置いていましたか。

このプロジェクトの場合、国土交通省、JVの方と広報チームが一体になった制作委員会をつくりました。企画内容のすべては、この会議で決定していきました。会ったことのない一般市民が、工事現場を見てドキドキ・ワクワク感動して、帰りに心から「ありがとう」と言ってくれる表情をいつも思い浮かべて計画を立てていました。チームのメンバーには「俺たちは世の中への大切な贈り物をつくっているんだ」といつも言っていました。また、より一体

感を高めるために、ロゴのデザインや、グッズ製作なども行いました(写真-1)。

●イベント出演した著名な方々の反応はいかがでしたか。

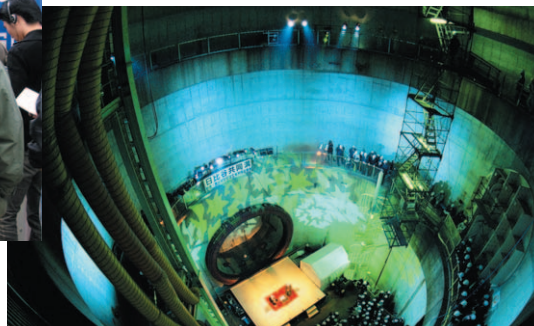
このプロジェクトで知り合った著名人は荒俣宏さん、野村萬斎さん、庵野秀明さんなどの方々ですが、みなさん常識破りの新しいことを応援しようという気持ちで楽しんで引き受けてくれました。出演者というよりも「地下空間や巨大構造物が純粹に好きだ」という気持ちで、プロジェクトに関わりたいと思ってもらえたんじゃないでしょうか。

また、たくさん訪れた報道陣(カメラマンや記者自身)の中にも実は「地下好きや巨大構造物が大好き」という人たちがいて、個人的な興味と関心に突

東京ジオサイトプロジェクト

東京ジオサイトプロジェクト
～都市の無意識が目覚める～

2003年11月18日～20日開催



●明日へつながる空間創造中(前田・熊谷JV土木主任 釣修之) ●虎の門・霞ヶ関・日比谷 忘れられない土地がまた増えました。(前田・熊谷JV事務主任 堂森宏三) ●子供たちがこのトンネルを目の当たりにすることがあるとしたら、何を思ってくれるだろう。(前田・熊谷JV土木主任 引田猛年) ●佐々木～、紺谷～、その他もろもろよ。おまえらが地上であくせく営業周回してる地下でオレは～穴掘ってるぜ～!!(前田・熊谷JV工事係 田端剛士) ●木脇へ、到達の美酒はお前の分まで飲んでやるから、安心して九州でガンバレ。(前田・熊谷JV工事係 清野和徳) ●夢は現実となる。(前田・熊谷JV工事係 亀田真加) ●愛する妻へ いつも淋しい想いをさせてるけど、いつかお腹の赤ちゃんと親子3人で東京の地下を散歩しようね。(前田・熊谷JV土木係 小野稔和) ●みんなに自慢できる自分たちの仕事 未来へゴォーです。(小野寺興業(株) 澤向聡)

き動かされて取材されていました。そのためか、記事はとても良いものに仕上がっていました。

●このプロジェクトの成功を感じた点を挙げていただけますか。

見学に来ていたOL風の女性が僕の耳もとでささやいたんです。「わたし実はクレーン大好きなんですよ」と。驚きましたが、土木に素直な魅力を感じていた普通の人と土木を仕事にしている人の気持ちが現場でつながったと感じました。また、見学者に現場を説明する学芸員（技術者をこの企画ではこう呼びます）のまるで営業マンのような説明と素敵な笑顔を見ていると、彼らの心を土木好きの無邪気な普通の人が開いたように感じました。現場には、見学者が自由に書き込めるホワイトボードを設置していましたが、そこにもたくさんの感動の言葉が溢れていて、非常にうれしかったです（写真-2）。

問合せの電話対応と多発する取材の調整は嬉しい悲鳴でした。広がりインターネットのブログの力です。インターネットで見学者を限定募集するのですが、募集開始から数分でサーバがパンクしたときは大変でしたね。また、見学に来た土木好きの人たちが、その日のうちにネット上の日記に体験や感想をレポートするという現象を生み、多いときは1日

で240万件のホームページアクセス数がありました。それを見てマスコミが動きました。

●日経コンストラクションの土木の広報大賞に選ばれましたが、こういった感想をおもちになりましたか。

本当にうれしかったです。スタッフ皆で始めたプロジェクトでしたが、多くの市民の人たちからもらった声援のおかげで頑張れたので、こうした第三者の評価は格別でした。その後、市民主催で受賞記念のパーティをやってもらったんです。それは感激でした。

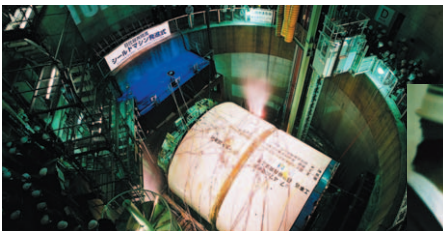
●海外からの取材もあったとのことですが。

日本では、ほとんどのテレビ局や各新聞社、ラジオで報道されました。海外では、BBC WORLD（英国放送協会）に放映されました。東京にこんなところがあったのか、というネット上の評判になりました。特に地底写真にインパクトがあったらしくCGではないかなどの問い合わせもあり、特にアーティストやクリエイター系の人たちにはジャパンアニメーションの原点といった取り上げ方をされているのが面白かったです。今でも、旅行代理店がツアーを組ませてほしいとか、海外から視察で見学に行きたいという問い合わせがあります。

東京ジオサイトプロジェクト

東京ジオサイトプロジェクト2
～沈黙のシールドマシン展～

2004年4月23日～24日開催

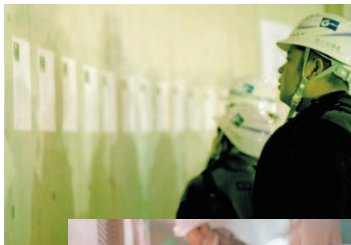


●子供の未来を住みよくするために…（小野寺興業（株） シールドマシンOP 藤嶋淳）●仲間と楽しくトンネル工事で明るい未来（小野寺興業（株） 金子光夫）●地底都市をつくり 人びとが生活する それが未来への夢です。（小野寺興業（株） 八木誠）●地下40メートルから宇宙へ 君らのハイテクライフはつづく（小野寺興業（株） 稲垣善次）●世の中暗い。地底も暗い。明るい未来を夢みて生きよう（小野寺興業（株） 岩藤明）●一生懸命（小野寺興業（株） 恵島昇一）●虎の門地下に未来の夢空間（小野寺興業（株） 伊藤正昭）●全人類に伝えたい！レジェンドへの序章 過去・現在、そして未来へ 地底の闇が栄光の輝きに！ 一穴入魂（小野寺興業（株） 永田喜光）●これからの地底の仕事も夢を持って未来の子供たちに引き継いでもらいたい。（小野寺興業（株） 永田一光）●トンネルは、地下都市を結ぶ血管だ！！（小野寺興業（株） 鈴木浩次）

東京ジオサイトプロジェクト

東京ジオサイトプロジェクト3 ～地底現場応援団～

2004年12月17日～18日開催



●土木好きという人たちは、たくさんいると感ぜられましたか。

ホームページは現在1,300万件のアクセス数を超えており、イベントが終わった今でも1日に2万件のアクセス数があります。その感触から、首都圏で5万人ほどの土木好きの人が存在するのではと推定しています。彼らは日常では土木に関心のないフリをして暮らしている「隠れ土木好き」ですが、カクレ同志の情報交換がネット上でかなり深いレベルで進んでいるように思います。だから、土木の仕事をしている人は、「土木が好き」なことを自分の言葉で社会に言えばよいのだと思います。

●ますます、このような広報活動は増えるとお考え

共同溝現場の浅古勝久氏(国土交通省)、前田真氏(前田・熊谷JV)、
荒谷泰弘氏(鹿島・東洋JV)にインタビュー

●なぜ、このようなプロジェクトを考えたのですか。

浅古氏 麻布共同溝は電気、電話や水道、日比谷共同溝はそれら3つに加え、下水が入っています。共同溝はライフラインを収納する生活に密着するもので、ないと困るものです。しかし、地下にあるため、ほとんどの人がこのような工事を目にするこ

ですか。

これから土木技術者が、自分の言葉で自分の仕事を自分の現場で説明する機会が増えていくでしょうね。そして、そのうち市民のニーズがダイレクトに建設会社に届くことになるでしょう。ジオサイトを機会に素直に土木に興味をもつ一般の人たち、約2,000人とネットワークをもつことができました。これからは、常に「感動」、「楽しさ」、「いい感じ」という言葉をキーワードにして、この人たちと土木のカッコ良さを世の中に広めるイベントをしようと考えています。

がありません。ですから、どういう仕事をしているかを見てほしいというのが、このプロジェクトをやろうと考えたきっかけです。これからは、私たち土木技術者は市民にどういった工事をしているのか知ってもらう責任があります。また、市民とのコミュニケーションを通じて、役に立つ良いものをつくっ

●ココ掘れワンワン ココ掘れワンワン 未来に向かって掘進中!! (小野寺興業(株) 須賀藻吾) ●家族・友人へ めったに会わないけどトンネルのようにまっすぐな人生を進んでるの
で心配しないでね。(海道建設(株) 地上玉掛班 山本兼司) ●地底の生活25年 地上の生活 もう戻れない(海道建設(株) 山上一嗣) ●親愛なる人たちへ 俺は自分自身が辛く悲し
いときも人に笑いや喜びや幸せを与え人の気持ちがわかる男になる!! 世界中の人びとが心から笑えるように…(〇〇) (海道建設(株) セグメント組立担当 小山内堅治) ●処理プラント
運転スッペ! (海道建設(株) 千葉弘志) ●雅・雛・いつもステキな笑顔をありがとう。これからも4人でがんばろう。(海道建設(株) エレクトーター担当 天野光一) ●もぐらのようなわが
人生 日本中の地中を放してみたい どこの土が一番うまいかな。(海道建設(株) セグメント組立ジャッキ操作担当 清水幸弘)

実際に東京ジオサイトプロジェクトの現場を体験



写真-4 麻布共同溝内



写真-6 シールドマシンの模型を使った作業の説明

私たちも東京ジオサイトプロジェクトの行われた共同溝を案内していただきました。なかなか見ることのできない共同溝掘削の現場。それに加えて詳しい説明が加わるとなると見学者が感動して帰ったのも納得です。

今年の1月末までの2年間で、約5,100名が現場視察や見学に来られたそうです。小さい子供さんから女性、ご老人の方までいろんな方が来られているため、現場ではさまざまな工夫もされていました。たとえば、歩行中につまずいてけがをしないように通路の足場板の結束を番線からプラスチック製のバンドに変えたり、墜落防止のため階段手すり下などの開口にはネットが張られていました。また、階段、手すり、エレベータの塗装は定期的に塗り替えられ、常に新しい状態に保たれていました。事務所内では、気軽に施工の内容が見られるようにシールドマシンの模型や絵でわかりやすく紹介されていました。



写真-5 現在掘られている日比谷共同溝の先端

ていく必要があります。

さらに、現場で作業をする側の気持ちの問題もありますね。人間ほめられるとうれしいし、すごいと言われると頑張りますよね。そういった気持ちの部分も大事だと思います。今でも、日本人は寡黙に一生懸命に頑張ることが美德とされています。ですが、やはり人間は注目されれば、より力を発揮しますよね。

●なぜ、これまで行わなかったのでしょうか。

浅古氏 これは、男女関係に近いものがあると思います。たとえ恋人同士でも、冷たい反応や気のない返事をされることは怖いですよね。それと一緒に、このようなプロジェクトをすることに対する不安のほうが強かったことと、どうすればいいかという手段を知らなかったことが原因でしょう。今までの見学会は飾りすぎていて、普段着でなかったように思います。ありのままを見てもらうことが、実は一番良いことだと教えられました。

●プロジェクト以降、周りが変わったなと感じましたか。

浅古氏 私どもは、これまでは現場を見せることが不安だったのが、今では現場をもっとよく見てもら

おうという雰囲気が変わってきました。

前田氏 自らいろいろと気を配り、意識をして行動するようになりました。特に現場周辺では、見学者が来るたびに清掃をしていたのでは仕事にならないので、いつ見学に来られてもよいように整理整頓を心掛けるようになりました。また、スタッフがよく話をし、一緒になって考えて一番良い方法を選ぶようになりました。だから、あまり余計なところに力を使わなくてよくなったように思います。

荒谷氏 現場一年生も含めて現場の社員が説明役となりました。工事のすべての内容を理解していないと説明や質問に答えられないため、各自が勉強して幅広い知識を身につけました。現場社員は、自分た

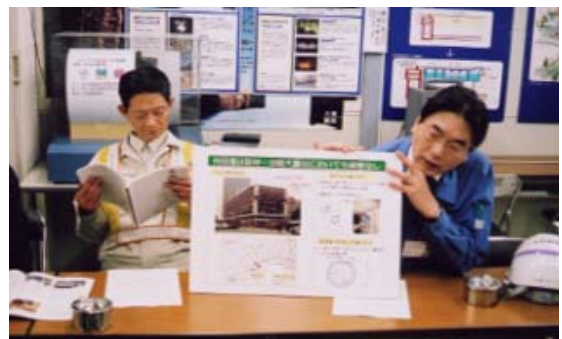


写真-7 共同溝について説明して下さる浅古氏(写真右)

●虎の門の下床から世界に向かって愛を叫ぶ♪ 瞳を閉じて… (海道建設(株) ストックヤード天井クレーン担当 成田宗隆) ●夢一虎の門地下40メートル平和会談開催 全世界の紛争国の首領様たちが丸型テーブル囲んで平和に向けての話し合い 虎の門平和宣言 (海道建設(株) 地上クレーンを地下40Mから操作する人 眞田益郎) ●最愛なる妻へ 大事なものは、地底へ隠す時代だって俺にとって大事なものは口うるさい嫁さんだ 嫁さんもここに…。 (海道建設(株) 地上クレーンオペレータ 舟木郁夫) ●地底で働く男たちが評してつくる共同溝 未来への夢が一杯です (海道建設(株) 井川弘一) ●怜央へ 父ちゃん頑張ってるよ!! (海道建設(株) プラント 藤枝正美)

ちの仕事をもっと理解してもらうため、非常に詳しく丁寧に説明しました。それに対して理解を示してくれる人が多いことに現場社員は驚き、仕事に対する誇りと自信をさらに大きなものとししました。技術者というのは、しゃべることはあまり好きではないと思いますが、苦勞した点や技術的なことを説明し理解してもらいたいと思う気持ちは皆さん一緒だと感じました。

●プロジェクト以降、現場でも変化がありましたか。

荒谷氏 昔は作業している姿を一般の人に見てもらい、自分たちの仕事を理解してもらうことなどは考えもしていなかったのですが、実際に見学していただいて賞賛されるとうれいすよね。また、別な角度から自分たちの仕事を見直すことができたと感じます。そのことが、これまでとは違った誇りやプライドを生み、結果的に現場の品質管理を充実させることになりました。工期は来年3月までですが、良い成果物をお客様に提供できると感じます。

前田氏 確かに、現在まで施工精度は数ミリ以内であり、セグメントのクラックや漏水もほとんどない状態で進んでいます。施工中でこれほどまでに精度よく工事を進めているのは、同様な工事では稀では



写真-8 インタビューの様子（写真左から荒谷氏、前田氏、浅古氏）

ないかと思っています。当現場の職員および作業員は、東京湾アクアライン、つくばエクスプレス、埼玉高速鉄道等、最近の日本の代表的な大断面シールド現場を経験した技術者で構成されています。その技術者たちに今までにはなかった誇りとプライドが加味された結果、このような成果が現れているのだと思います。この成果は国内でもトップクラスではないかと自負しています。

最後になりましたが、お忙しい中、快く取材に応じていただいた山名清隆氏（ソーシャルコミュニケーションプランナー）、浅古勝久氏（国土交通省）、前田真氏（前田・熊谷JV）、荒谷泰弘氏（鹿島・東洋JV）に感謝いたします。どうもありがとうございました。

取材を終えて…



この取材を通じて、「つながる」というキーワードが、これまでに気がつかなかった土木の魅力を見つけ出してくれたように感じました。また、山名様の言葉のように私も「楽しさ」や「いい感じ」で物事に取り組んでいきたいです。

【学生編集委員 橋本紳一郎】



現場を訪れたときの一番の印象は、「きれいな現場」でした。特に清掃の日を設けることもなく、普段から整理が行き届いている様子から、現場の明るい雰囲気・皆さんの仕事に対する誇りが伝わってきました。この空気を生んだことがイベントの最大の成果なのかもしれません。

【学生編集委員 磯部公一】

編集後記

本企画は、「つながる」という言葉をキーワードに、土木をさまざまな角度から取材してきました。その取材を通じて、土木がつないでいるのは人と人なんだ、という思いに達しました。読者の皆様に私たちが感じたものを少しでもお伝えできたのであれば幸いです。

【学生編集委員 磯部公一】

この記事に関する感想、ご意見は下記までお寄せください。

E-mail : edi2@jsce.or.jp

●トンネルを抜けるとそこは雪国だった。出口の向うに見えるのが故郷だと良いのに…（海道建設（株） 田中千加志）●お父さん、お母さん、早く一人前になって孝行したいです。（エコシビックエンジ（株） 白川朋史）●ずっと先のことはわからないけど昨日頑張ったから今日も頑張れる そんな想いが伝わりますように。（エコシビックエンジ（株） 坂井浩）●地下への夢は限りなく！！（住吉興業（株） 佐藤武一）●トンネル抜ければ明るい光、突き進もう！ 明るい未来へ。（住吉興業（株） 職長 嶋原邦幸）●この先障害に突き当たっても、家族一緒に振り進もう。（住吉興業（株） 佐藤仁）●地下へ広げる夢と未来 その出入口でお手伝いをしています。（シンテイ（株） 笠原厚雄）